

アユ釣りの季節



御前山村企画室長

金長義郎

本村の役場庁舎は高台にあるので、杉、樺、桜などの樹木のあいだから、1 kmほど先の那珂川を垣間見ることができます。

那珂川のアユ釣りは、例年6月1日が解禁なので、この原稿が印刷された頃には、庁舎の窓から釣り人の姿がちらちら見え隠れしているころと思います。

水戸から国道123号を宇都宮方面へ走ると、御前山村の入口に那珂川大橋がありますが、その1 km程下流に、那珂町、水戸市方面に農業用水を送る小場江堰があります。例年そこの魚道をはるアユを見て、今年は多いとか少ないとか話題になりますが、今年は魚影が濃いとの情報も入っておりますが、いざ解禁になってみると毎年それほど釣れず、自分の腕のほどは棚に上げて、やれ「水が増えて魚が栃木県へ全部遡ってしまったのでは」とか、「びわ湖産の稚鮎の放流が少ないのでは、漁協は本当に放流しているのか」など、ひとしきり賑やかになります。

役場職員にもアユ釣り(友釣り)をする人が何人もおり、名人級に迷人も交じって、月曜日の朝などは、昨日の釣果の情報交換がみられ、休み時間には双眼鏡で、那珂川のポイントに入っている人の状況視察をしている人もおります。

私もアユの友釣りを始めて20数年になりますが、罎を泳がせていると、ツンツンというあとにガツンとアユが掛かり、下流へツツと走る瞬間の感触は、いつもぞくぞくとする感じに襲われ病みつきになっており、アユ独特の西瓜と同じ匂いを嗅ぐと、ああ「今年も夏が来たな」と思いを新たにします。

釣り人気質にもいろいろありますが、魚つりは

気の短かい人がやると言われておりますが、周囲をみると案外当たっているかも知れません。誰もが短気ではないと思いますが、見かけは悠長そうな人でも、芯は気短かな人が多いようです。

しかし、私を含めて気の短かい人が、精神を鍛練して忍耐力をつけ、心にゆとりを持つために釣りをするというような殊勝な心掛けではないと思われれます。気短かな人が表面はのん気そうに、おだやかな様子で釣り糸を垂れているようでも、頭の中はせわしく、どの辺が釣れるだろうか、こうすればよいのかなど、あれやこれや心の中が気ぜわしく動いているのが本心で、良く言えば探求心が強く、短気の人魚釣りに向いているのかも知れません。

また、釣り天狗と言われるように、総じて釣果は水増し報告が多いようです。「きのう何匹釣れた?」、「20匹位かな」というときは15匹位で、20匹釣れたときは、「30匹位かな」というような答えが多いようで、人に負けたくないという気持ちの現れか、ご愛嬌のところもあります。

いずれにしても、瀬に立ち込んで罎を操り、罎アユと糸と竿と、自分の気持ちが1本につながるような境地になったときは、何ものにもかえられないものです。

那珂川の水も釣りを始めた20数年前の頃と比べてみると、夏日の最中川瀬の中に立ちすくんでいて、のどが渴いたとき水を手で掬って飲みながら釣りを続けたことを考えてみると、流域に住んでいる人それぞれが環境浄化につとめ、昔日の清冽な水質にもどし、きれいな那珂川にして次の世代へ引き継いでいかなければならないのではないかと思われます。

(経) (済) (動) (向)

国 内 の 動 き

● 景気動向一致指数, 2月は90%超す

経済企画庁が28日発表した2月の景気動向指数は、景気の現状を示す一致指数が90.9%と前月の68.2%からさらに上昇、60年5月以来1年9ヵ月ぶりに90%を超過水準になった。また、半年程度先の景気の判断材料となる先行指数は66.7%で、3ヵ月連続して景気判断の分かれ目となる50%を上回った。同庁は「円レートが2月の水準(月間平均1^{ドル} = 153円48銭)のまま推移していたら、景気は2月に底

入れしたといえたが、その後一段の円高で、先行きは不透明になった」と説明している。

一致指数が90.9%というのは、指数を構成する11の指標のうち、10指標について2月の水準が3ヵ月前の昨年11月の水準を上回った(11分の10の割合)ということ。
(日経 4月29日付)

● 円ベース輸出16.0%減

通産省が10日発表した61年度(61年4月~62年3月)の輸出確認・輸入報告統計によると、輸出額(円ベース)は33兆925億円で前年度比16.0%減と4年ぶりにマイナスに転じた。

った。輸入額(円ベース)は17兆2594億円で同34.2%減少した。ドルベースでも1061億4800万^{ドル}と同7.1%のマイナス。

同時に発表した3月の輸出確認・輸入報告統計をみると輸出額(円ベース)は2兆9544億円で前年同月比6.6%、輸入額(同)は1兆6096億円で同16.0%それぞれ減少した。ドルベースでは輸出額は192億9600万^{ドル}で同16.5%増加、輸入額も105億1300万^{ドル}で同4.7%増えた。
(日経 4月11日付)

減少幅は6兆2988億円で史上最高を記録した。前年度比増減率も27年度のマイナス21.8%以来の落ち込み。一方、ドルベースでは円高によるJカーブ効果から、前年度比18.2%と大幅に増加し、金額は2033億9800万^{ドル}と史上最高とな

● 賃上げ平均, 3.53%

全労協が23日発表した主要企業の87春闘賃上げ妥結状況(21日現在)によると、妥結した237組合(全352組合)の妥結内容は、組合員数による加重平均で7,959円、3.53%と、昨年実績(10,135円、4.65%)に比べ額、率とも大幅に下回った。

いずれも3%台後半の水準を示した。半面、円高不況のあおりをあまり受けていない情報・流通・金融は4.63%と比較的高めの賃上げ水準になった。

全労協が同時に発表した中小企業の妥結状況によると、妥結した151組合の賃上げは加重平均で7,400円(昨年実績9,003円)、3.79%(同4.77%)と主要企業平均を率でやや上回っている。(日経 4月24日付)

業種別に見ると円高不況の直撃を受けた鉄鋼、造船では主力の金属が3.05%と最も低く、金属以外の製造業(3.58%)、交通・運輸(3.63%)、資源・エネルギー(3.77%)は

県 内 の 動 き

● 中小企業に技術情報提供

茨城県は工業技術情報のデータベース化に乗り出す。県工業技術センターで収集した技術指導事例、文献などの県内技術情報を整理するとともに、日本科学技術情報センターのオンライン情報「J O I S」の検索ができるようにする。中小企業に情報提供し技術力の向上を支援するのが目的。

データベース化する主な資料は、①巡回技術指導と技術相談、技術アドバイザー指導の結果 ②国公立研究機関の研究情報および同センターの研究報告 ③県内企業の技術マップなど。初年度の62年度は、同センターに最大320メガバイトの容量を持つデータベース専用機を2台導入し、入力を始める。(日経 4月29日付)

データベースは62年度から5ヵ年をかけて整備する。デー

● 大洗港に海浜リゾート

茨城県は大洗港に海浜リゾートの機能を集中する計画づくりに着手する。国の「コースタルリゾート」事業の指定を受ける予定で、海水浴場、ヨットマリーナ、マリントワー公園、市街地再開発の整備を進めるのが目的。対象面積は約30^{ヘクタール}。62年度予算に800万円の調査費を盛り込んだ。このうち海水浴場については大洗町が大洗サンビーチ(長さ約700^{メートル})の延伸を検討中。マリーナは県が61年度補正予算で、滞在施設を整備する方向で調査している。マリントワー

はすでに設計が決まり、近く着工、64年度完成を目指す。再開発は町が計画を作成中で、住居関係の移転が有力となっている。

リゾートの中心となるのはマリーナで、神奈川県湘南地域をモデルにホテルや関連店の配置を考えていく。同町には海沿いにゴルフ場もあり、年間400万人以上の観光客を集めているが、海浜整備でさらに集客力を強める。
(日経 4月26日付)